

# 漁業資源・漁場調査と情報提供

御所豊穂・武田崇史・中地良樹・小林慧一・武田保幸

## 目 的

和歌山県周辺海域における漁場環境のモニタリングを行うとともに、漁業資源の適切な保存および合理的・持続的な利用を図るための資源診断・動向予測・最適管理手法の検討に必要な基礎資料を整備する。また、調査結果をもとに、関係漁業者・団体に情報提供を行う（水産資源調査・評価等推進委託事業（国費））。

## 方 法

主な調査市場（図1）で、生物情報収集調査（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、スルメイカ、シラス）及び資源動向調査（ムロアジ類（マルアジを含む）、タチウオ、イサキ、ハモ）を行うとともに、漁業調査船「きのくに」を用いて、海洋観測（卵稚仔調査を含む）を月1回、沿岸定線24定点と浅海定線18定点において実施した（図1）。4、5月にはモジャコ調査を実施した。

## 結果及び考察

海洋観測表およびモジャコ調査速報として公表した資料を当事業報告巻末に添付した。海洋観測（卵稚仔調査を含む）等の結果については、国立研究開発法人水産研究・教育機構、各都道府県水産試験研究機関及び一般社団法人漁業情報サービスセンターで構成するネットワークシステム（FRESCO）を用いてオンラインデータベースに登録した。生物情報収集調査対象魚種（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、スルメイカ、シラス）について、その「資源評価表」が、水産庁及び国立研究開発法人水産研究・教育機構の担当水研により策定、公表された。和歌山県に関連する情報については、漁海況情報やイワシ類産卵情報などを通じて関係漁業者・団体に提供した。ムロアジ類、タチウオ、イサキおよびハモについては、資源動向をとりまとめ、国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所に報告した。また、「第48回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議」、「平成29年度太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議」、「平成29年度中央ブロック資源動向調査検討会」および「平成29年度中央ブロック卵・稚仔、プランクトン調査研究担当者協議会」において、調査結果を報告した。

主要魚種の月別漁獲量を図2に示す。紀伊水道内標本2市場（西脇・栖原計）の船びき網によるシラスの漁獲量は、1、2、6、7月に平年（2007～2016年の10年平均、以下同）を上回り、6、7月は平年比約4倍と極めて好漁であった。2そうまき網によるサバ類漁獲量（比井崎・御坊市・田辺計、2そうまき網は以下同じ）は、7、8、11月に平年を上回った。2そうまき網によるマアジ漁獲量は、3、5、7～10月に平年を上回り、その他の月は平年を下回った。2そうまき網によるマルアジ漁獲量は、平年を上回ったのは7月のみで、年合計は平年の半分以下であった。紀伊水道内標本1市場（加太）の一本釣りによるマダイの漁獲量は、全ての月で平年を大きく下回った。紀伊水道外域標本1市場（南部町）の棒受網によるウルメイワシ漁獲量は、6月以外、平年を下回った。

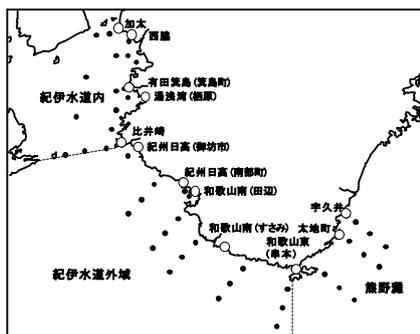
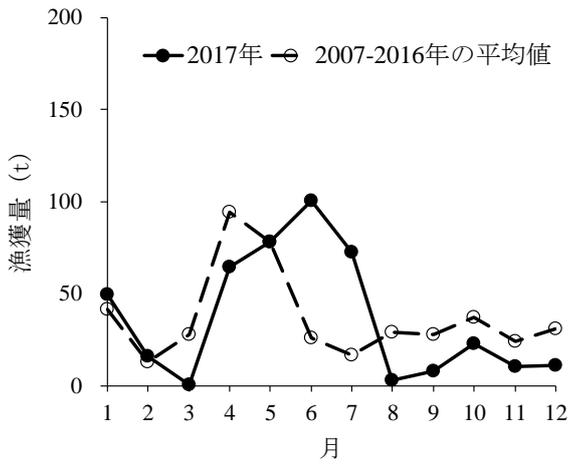
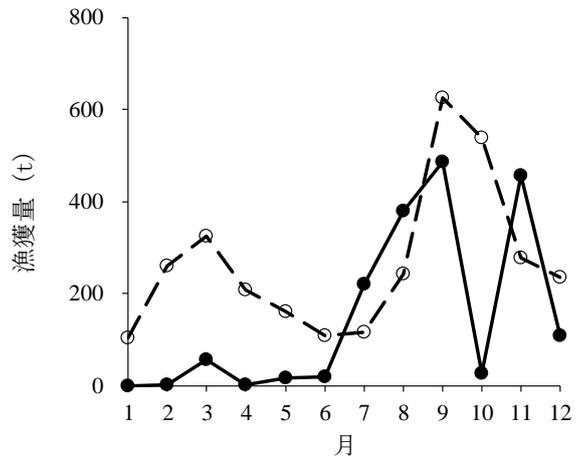


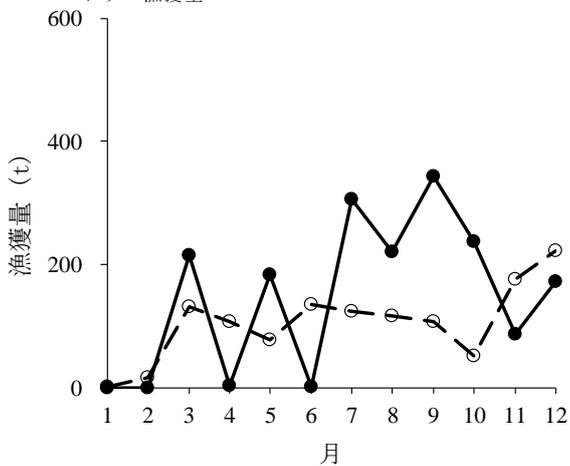
図1 主な調査市場（○）と海洋観測調査定点（●）



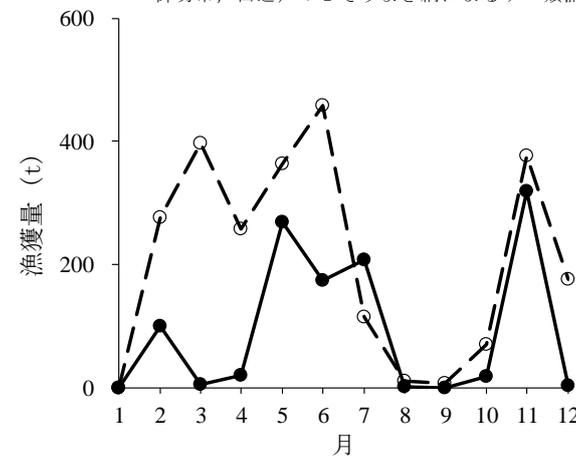
紀伊水道内標本2市場（西脇，柗原）の船びき網によるシラス漁獲量



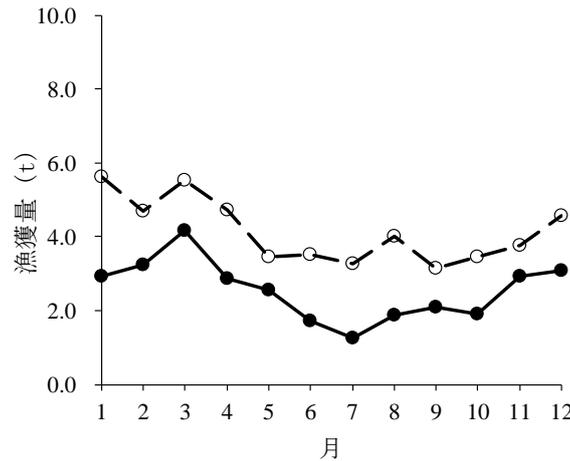
紀伊水道内及び紀伊水道外域標本3市場（比井崎，御坊市，田辺）の2そうまき網によるサバ類漁獲量



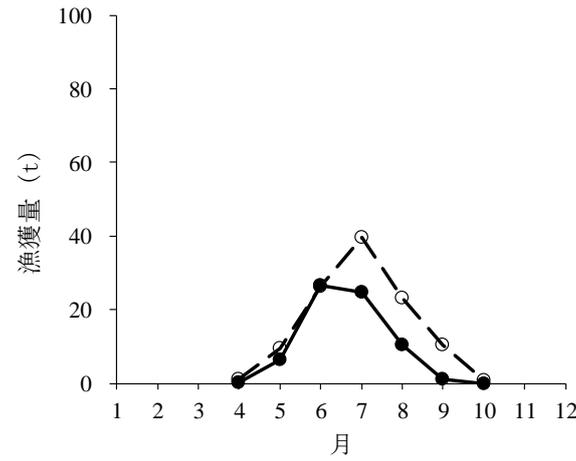
紀伊水道内及び紀伊水道外域標本3市場（比井崎，御坊市，田辺）の2そうまき網によるマアジ漁獲量



紀伊水道内及び紀伊水道外域標本3市場（比井崎，御坊市，田辺）の2そうまき網によるマルアジ漁獲量



紀伊水道内標本1市場（加太）の一本釣りによるマダイ漁獲量



紀伊水道外域標本1市場（南部町）の棒受網によるウルメイワシ漁獲量

図2 主要魚種の月別漁獲量